



五百旗頭真の

大災害の時代

第30回 [警察の危機対応力]

進化遂げた公助部隊

警察・消防・自衛隊など公助を担う第一線部隊のうち、阪神・淡路大震災において断然多くの生存救出に成功したのは、警察であった。共同作業も含まれると断りつつ発表されている数字は、警察3495人、消防1387人、自衛隊1650人である。生存救出される人の大部分は震災当日である。倒壊家屋の下から助けを求める声は、時間ごとにか細くなり消えていく。それだけに被災現場近くに密度高く届かせる公助機関である警察は、多くの人を救出することができた。逆に震災時に現場にいない自衛隊はこの数字にとどまった。

東日本大震災においても、警察は約37500人を救出した(警察庁緊急災害備本部「東日本大震災における警察活動に係る検証」2011年11月)。生存救出の意味合いは両震災で異なる。阪神・淡路の場合は、まず共助により家族と近所の人々で倒壊家屋に埋もれた人々を救出する。簡単に掘り起せばよい人々が公助の対象となる。その比率は、ほぼ8対2と言われる。他方、東日本大震災の津波に襲われた人々にとって、まずは津波が来る前に「逃げろ」ということである。不幸にも津波に巻き込まれたら、懸命に泳いで水面に浮かび上がり、運よく陸上の木や柱につかまり、「逃げる」ことに成功した人々が、共助や公助により救出される。つまり自助ができなかった人々は津波に沈み、そもそも助からない。自助により、とりあえずの生存を確保しながら孤立し震えている、その人々を安全の地に移すのが、東日本大震災における救助の意味である。それを基本としながら、多くのパリエーションが存在するとは言うまでもない。

他人の命を守る

東日本大震災において30人の警察官が犠牲となった。人々の無事のため、津波到来と避難を海辺のまちへ赴いてマイクで告げてまわり、時には逃げ遅れた人や不自由な人を助けようとしたし、自らも想像しなかった突然の津波にのまれたケースが多い。パトカーごと流され、死を覚悟したが、側面の窓ガラスを砕いて外に逃れ、パトカーの屋根から木に登って助かった警察官もいた(同前書)。

わが身を顧みず

JR常磐線の列車が新地駅に停車中、地震が来た。立っておれないほどの大揺れで、駅舎はこんなやぐらのようにゆがんで見えた。40人の乗客の中に、警察学校で初任者研修を終えたばかりの若手警察官が2人いた。人々の安全確保、負傷者の救護など、研修で学んだ事故のマニュアルに従って身の動いたマニュアルに分かれて車内の安全確認をし、車掌に告げた後、携帯電話

が津波警報を告げた。新地駅は海から500mの平坦な地にある。もしその津波が来なければもろくは乗客に迷惑をかけるに過ぎなかったが、やはり命を確実に守るため避難しようとは断じた。先頭と最後を警察の2人で囲み、内陸側の町役場の丘に向かって行軍を開始した。足の不自由なおぼあさんがいて、最後尾の斎藤圭警察官は遅れた。15分ほど歩いたところで、大きな地鳴りが響いた。振り返ると壁のような津波が迫りかかってくるのが見えた。死を覚悟したが、たまたま通りかかった軽トラックを呼びとめ、おぼあさんと数人を乗せてもらい、逃げ切ることができた。振り返ると町役場の足元まで激流が新しい、広く報道されたように、新地駅でJR車両は津波によって原形をとどめないほどに破壊され、天に向かって突き立てるようになった。折れ曲がっている



津波で崩壊したJR常磐線新地駅一福島県新地町谷地小屋で2011年3月17日、神保圭作撮影

うへの字型に折れ曲がっている。村井治一郎(東日本大震災の教訓)吉宮書院、11年8月)。

全国的広域支援 装備も充実させ

警察も進化している。阪神・淡路大震災時に比べて、大きく改善されたと思われる点が二つある。一つは全国的な広域支援体制であり、もう一つは災害対応体制の強化である。阪神・淡路大震災への応急対応が一段落した1995年6月、警察庁は「広域緊急援助隊」を制度化した。被災者の人命救助などを行う警備部隊2500人、阪神での交通マヒの苦い経験から交通部隊1500人を中心し、全国から抽出して被災地に集中投入し、危機対応力を高める制度であり、警察庁長官が本部長となって決定・指示することとなった。その後、遺体検

こととなった。その後、遺体検視などのための刑事部隊の追加を検討し、新潟中越地震の経験を経て、05年4月には災害対応装備をもって救出活動を行う特別救助隊2000人が警備部隊に加えられた。さらに東日本大震災時には、新技術による機動警察航空隊、管区機動隊からなる緊急災害警備隊が増強され、1万人の即応部隊による支援が可能となった。被災3県の平時警察力は合計で約8000人であるが、大震災に際しては1日あたり3県で最大48000人の広域支援を受けた。単単位を基本とする警察組織が制約主義に随することなく、有事には全国的規模で動的・統合的対応を可能にする画期的改革といえよう。第二の装備については、私の偏見かもしれないが、阪神・淡路の頃の警察は消防・自衛隊と比べても、人員ははるかに多く装備は原始的と思われている。それが大きく変化している。今述べたように、特別救助隊が新設され、航空隊や機動通信隊も加わった。それに女性警察官を集めた生活安全部隊も登場した。最新装備と手法を被災地に集中的に投入できるようになったのである。広域緊急援助隊の第一陣は、早くも震災翌日の早朝に被災地において活動を開始した。仙台市若林区の水につかりがれきり化した地に約1000人が列をなして進出し、集落に取り残された人の救出にあたった。名取川にかかる開上天橋の周辺は津波の海に沈んだが、大橋と歩道橋だけが海面に顔を出しており、助けを求める人がいた。そこから母親と乳児を含む6人を震災当日に救出したのは、警察ヘリでやってきた機動隊員であった。震災後9日を経た3月20日夕、宮城県石巻市内の倒壊家屋から少年とその祖母が救出されたのは、全国的ニュースとなった。この2人を救出したのは、鹿兒島県警のヘリであり、病院への搬送を行った。3県で計58の警察署、247の交番・駐在所が津波に洗われた。世界に冠たる人々と共にあるKOBANであれば、集落が海辺にある限り交番もまたそこにある宿命なのかもしれない。しかし広域拠点的な警察署は自ら被災しない対応を求められる。消防署、自衛隊基地、市役所、県庁なども同じことであるが、人々を支える任務を負う者は「自ら安全なる者のみか人を助けることができる」と肝に銘じなければならない。3県において警察の車両71台、船舶3隻、ヘリが津波により損壊した。しかし全国の警察から車両約1000台をはいじり、被災をはるかに上回る機動力が提供された。このような対応は根深く合理的である。日本全国どこであれ大災害に襲われる。しかし地域に例外的な災害への備えがあるわけではない。平時の平均的な事件・事故にいざさかさを付けた程度の警察力しか予算は与えられない。それだけに、どこであれ非常事態の災害や事件が起これば、よき機動力をもって全国から広域支援を行うシステムが合理的である。例外的な非常事態の場合だけでなく、次第に平時から機動的防衛力によって広域を守る方向に変わらざるを得ないであろう。阪神・淡路、中越、中越沖、東日本と、あいつつ天災への対応の中で進化してきた社会の構造方は、実は災害時にとどまらない歴史的使命をもつのである(警察庁「東日本大震災と警察」12年3月、警察庁「東日本大震災に伴う警察措置」14年3月、警察庁の申中一明警備課長補佐、おまひ大槻拓磨部へのインタビュー)。

こととなった。その後、遺体検視などのための刑事部隊の追加を検討し、新潟中越地震の経験を経て、05年4月には災害対応装備をもって救出活動を行う特別救助隊2000人が警備部隊に加えられた。さらに東日本大震災時には、新技術による機動警察航空隊、管区機動隊からなる緊急災害警備隊が増強され、1万人の即応部隊による支援が可能となった。被災3県の平時警察力は合計で約8000人であるが、大震災に際しては1日あたり3県で最大48000人の広域支援を受けた。単単位を基本とする警察組織が制約主義に随することなく、有事には全国的規模で動的・統合的対応を可能にする画期的改革といえよう。第二の装備については、私の偏見かもしれないが、阪神・淡路の頃の警察は消防・自衛隊と比べても、人員ははるかに多く装備は原始的と思われている。それが大きく変化している。今述べたように、特別救助隊が新設され、航空隊や機動通信隊も加わった。それに女性警察官を集めた生活安全部隊も登場した。最新装備と手法を被災地に集中的に投入できるようになったのである。広域緊急援助隊の第一陣は、早くも震災翌日の早朝に被災地において活動を開始した。仙台市若林区の水につかりがれきり化した地に約1000人が列をなして進出し、集落に取り残された人の救出にあたった。名取川にかかる開上天橋の周辺は津波の海に沈んだが、大橋と歩道橋だけが海面に顔を出しており、助けを求める人がいた。そこから母親と乳児を含む6人を震災当日に救出したのは、警察ヘリでやってきた機動隊員であった。震災後9日を経た3月20日夕、宮城県石巻市内の倒壊家屋から少年とその祖母が救出されたのは、全国的ニュースとなった。この2人を救出したのは、鹿兒島県警のヘリであり、病院への搬送を行った。3県で計58の警察署、247の交番・駐在所が津波に洗われた。世界に冠たる人々と共にあるKOBANであれば、集落が海辺にある限り交番もまたそこにある宿命なのかもしれない。しかし広域拠点的な警察署は自ら被災しない対応を求められる。消防署、自衛隊基地、市役所、県庁なども同じことであるが、人々を支える任務を負う者は「自ら安全なる者のみか人を助けることができる」と肝に銘じなければならない。3県において警察の車両71台、船舶3隻、ヘリが津波により損壊した。しかし全国の警察から車両約1000台をはいじり、被災をはるかに上回る機動力が提供された。このような対応は根深く合理的である。日本全国どこであれ大災害に襲われる。しかし地域に例外的な災害への備えがあるわけではない。平時の平均的な事件・事故にいざさかさを付けた程度の警察力しか予算は与えられない。それだけに、どこであれ非常事態の災害や事件が起これば、よき機動力をもって全国から広域支援を行うシステムが合理的である。例外的な非常事態の場合だけでなく、次第に平時から機動的防衛力によって広域を守る方向に変わらざるを得ないであろう。阪神・淡路、中越、中越沖、東日本と、あいつつ天災への対応の中で進化してきた社会の構造方は、実は災害時にとどまらない歴史的使命をもつのである(警察庁「東日本大震災と警察」12年3月、警察庁「東日本大震災に伴う警察措置」14年3月、警察庁の申中一明警備課長補佐、おまひ大槻拓磨部へのインタビュー)。

た。この2人を救出したのは、鹿兒島県警のヘリであり、病院への搬送を行った。3県で計58の警察署、247の交番・駐在所が津波に洗われた。世界に冠たる人々と共にあるKOBANであれば、集落が海辺にある限り交番もまたそこにある宿命なのかもしれない。しかし広域拠点的な警察署は自ら被災しない対応を求められる。消防署、自衛隊基地、市役所、県庁なども同じことであるが、人々を支える任務を負う者は「自ら安全なる者のみか人を助けることができる」と肝に銘じなければならない。3県において警察の車両71台、船舶3隻、ヘリが津波により損壊した。しかし全国の警察から車両約1000台をはいじり、被災をはるかに上回る機動力が提供された。このような対応は根深く合理的である。日本全国どこであれ大災害に襲われる。しかし地域に例外的な災害への備えがあるわけではない。平時の平均的な事件・事故にいざさかさを付けた程度の警察力しか予算は与えられない。それだけに、どこであれ非常事態の災害や事件が起これば、よき機動力をもって全国から広域支援を行うシステムが合理的である。例外的な非常事態の場合だけでなく、次第に平時から機動的防衛力によって広域を守る方向に変わらざるを得ないであろう。阪神・淡路、中越、中越沖、東日本と、あいつつ天災への対応の中で進化してきた社会の構造方は、実は災害時にとどまらない歴史的使命をもつのである(警察庁「東日本大震災と警察」12年3月、警察庁「東日本大震災に伴う警察措置」14年3月、警察庁の申中一明警備課長補佐、おまひ大槻拓磨部へのインタビュー)。

いおきへ・まこと ひょうご 震災記念21世紀研究機構理事 長、熊本県立大学理事長・日本政治外交史